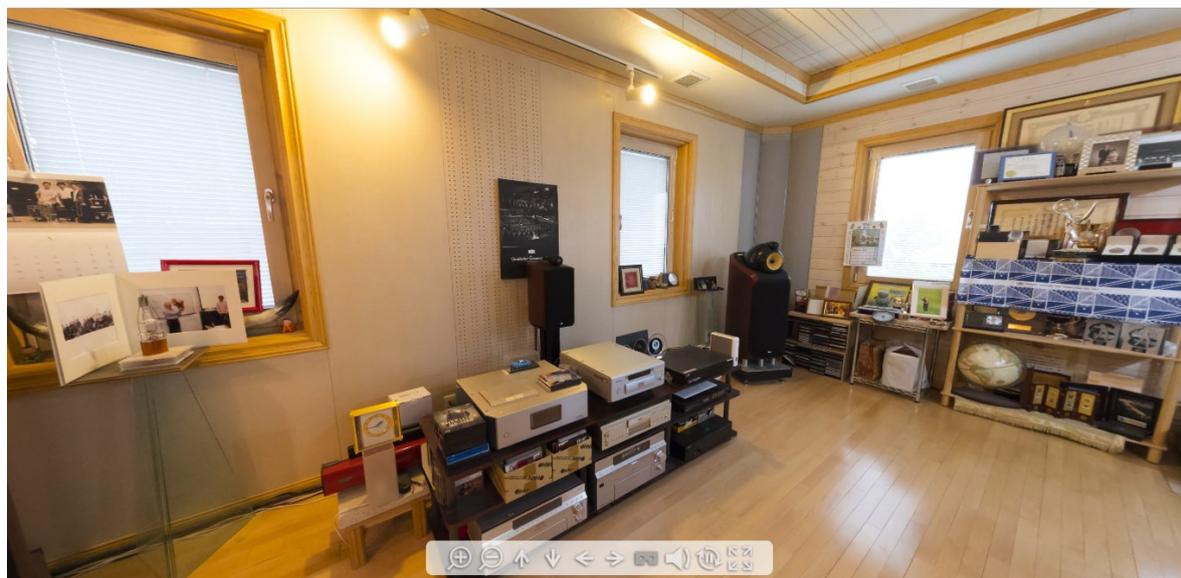


【連載：「試聴室探訪記」第30回】
～谷口ともり、魅惑のパノラマ写真の世界～
Super Audio CD サラウンド・サウンドの魅力全開
鶴島 克明邸 訪問
フォトグラファー 谷口 ともり・編集委員 森 芳久



今回は神奈川県麻生区の瀟洒な一戸建てにお住まいの鶴島 克明氏のリスニング・ルームを訪問いたしました。氏はソニーで元 CTO (Chief Technical Officer) として、文字通りソニーの技術の総責任者を務めた技術者です。オーディオ協会の皆様は良くご存知のように、CD の開発、MD の開発、そして Super Audio CD (SA-CD) の開発とフォーマット普及などオーディオ界に大きな貢献をされました。

鶴島氏は言うまでもなく同時に熱心なオーディオ・ファンでもあります。そもそも「当時高価であったトランジスタを存分に使える環境で自分の納得する最高のオーディオアンプを開発したい」というのがソニー入社のも動機だったと伺えば、オーディオにける情熱が只者ではないことが分かります。

その鶴島氏が、長年の夢であった夜中でも満足のいく音量でオーディオを楽しめるリスニング・ルームを実現するため 8 年前に新築されたのが、今回ご紹介する試聴室です。

まず部屋の中に入るとそこは北欧調の明るい部屋で、正面に並んだオーディオ機器を眺めなければ試聴室というより、快適なリビング・ルームといった印象を受けました。部屋の内装には北欧の木材を用い、家屋全体はセルロースファイバーによる防音・断熱処理が行われ、さらに外壁を煉瓦で囲むことで外部に対する音漏れを防ぎながら、美しい外観を得ることに成功しています。防音を考慮した三重ガラス窓も部屋の明るさと開放感を演出し、とても居心地の良い部屋となっています。部屋は 20 畳の天上がやや高めの方角のスペースとなっています。この部屋の残響時間は 0.2sec に調整されとても聴きやすい環境となっています。また床には 20mm 以上の

厚みを持つ比較的明るい色調のメイプル材が奢られ、音はもちろん部屋を明るく演出するのに効果を上げているようです。

リスニングポジションは最初に構想されていたスピーカーの置き方とは 90° 異なって、壁の長手方向に正面左右のメインスピーカーの配置に落ち着いたとのこと。この置き方は比較的狭い部屋での音の広がりや定位が向上するということから、石井伸一郎氏などが提案され、この試聴室探訪記の訪問先でも多くの方が実践されています。

鶴島邸では、メインスピーカーに B&W 800D、センター B&W 805S、リアスピーカー B&W CM-1 を使われていますが、この部屋の端正な音の再現の鍵となっているようです。このサラウンドスピーカーをドライブするのが SONY のマルチチャンネルインテグレートッドアンプ DA-9100ES です。SA-CD /CD プレーヤーは SONY の第一号機 SCD-1、そして受注生産販売された同社の最高級機種 SCD-DR1 が活躍しています。SA-CD 生みの親として当然の選択でしょう。

このスピーカーレイアウトや機器からも判るように、ここでのメインソースは当然ながらマルチ・チャンネルの SA-CD です。特にオペラやオーケストラを聴くのが大好という鶴島さん、そこに浮かび上がったのはまさに特上席での臨場感溢れる音楽でした。

そしてポップアップタイプのスクリーン、キクチ科学 Stylist SD-100HDAM/R を広げ、フル HD プロジェクター SONY VPL-HW15 を ON にすればそこは極上のホームシアターに早変わりします (写真参照)。



鶴島氏はこの部屋を「くつろぎの城」と名付けました。今回も谷口とものりさんの高画質パノラマ画面でその「くつろぎの城」を存分にお楽しみください。

パノラマ画像の操作説明

- パノラマ写真は、[ここ](#)か、はじめのページの**画像**をクリックしてご覧ください。
(ローディングに若干時間がかかる場合があります。)
- マウス操作で、画面を上下・左右 360 度、自在に回転してご覧いただけます。
- 画面下にある操作ボタンで次の操作ができます。
 - + 画面のズームイン
 - 画面のズームアウト
 - ← 画面の左移動
 - 画面の右移動
 - ↑ 画面の上方向への移動
 - ↓ 画面の下方向への移動